



# JBoss Enterprise SOA Platform 5

## 5.1.0 リリースノート

5.1.0 リリースでの変更

エディション 5.1.0



# JBoss Enterprise SOA Platform 5 5.1.0 リリースノート

---

5.1.0 リリースでの変更

エディション 5.1.0

## 法律上の通知

Copyright © 2010 Red Hat, Inc..

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本リリースノートには、JBoss Enterprise SOA Platform 5.1.0 リリースの変更点に関する重要な情報が含まれています。JBoss Enterprise SOA Platformは、エンタープライズアプリケーション統合 (EAI: Enterprise Application Integration) および SOA ソリューションの開発向けにサポートされている検証・認定済みの環境です。本リリースノートの最新版については、のオンライン文書を参照してください。

---

## 目次

1. 概要 .....	2
2. よくある質問 (FAQ) .....	2
3. 既知の問題 .....	4
4. 解決済みの問題 .....	8
A. 改訂履歴 .....	21

## 1. 概要

JBoss Enterprise SOA Platformは、エンタープライズアプリケーション統合 (EAI: Enterprise Application Integration) およびサービス指向アーキテクチャソリューションの開発向けにサポートされている検証・認定済みのプラットフォームです。

Hibernate、Seam、JBoss Clustering、JBoss Application Server、JBoss Enterprise Service Bus (ESB) など、安定性および拡張性のあるオープンソースフレームワークやソリューションを多数統合し、エンタープライズSOAアプリケーションのインフラストラクチャを提供しています。

コミュニティが開発し、企業の認定、サポートのある製品を統合、テストすることで、信頼性、堅牢性、拡張性の高いプラットフォームを提供しています。優れたJBoss イノベーションで強化され、Red Hatエンジニアリングや品質保証で後押しされているJBoss Enterprise SOA Platformは、新世代のエンタープライズアプリケーションに対し最も優れたプラットフォームです。

## 2. よくある質問 (FAQ)

問： 本リリースの新機能は何ですか？

答： JBoss Enterprise SOA Platformの5.1.0 リリースの新機能は以下の通りです。

- Apache CXF のサポートを含む、JBoss Enterprise Application Platform の最新版 5.1 を利用

- JBoss Rules 5.1

- その他のプラットフォームやデータベース認定

  - IBM JDK 1.6

  - Red Hat Enterprise Linux6、Microsoft Windows Server 2008

  - DB2 9.7、PostgreSQL 8.4、MS SQL Server 2005および2008

  - JMSプロバイダとしてのWebSphere MQ v7

- JBoss Enterprise Data Services Platformへのサポート

---

問： **JBoss Enterprise Data Services Platform**とは何ですか？

答： JBoss Enterprise Data Services Platformは JBoss Enterprise SOA Platformを拡張する新製品でデータ仮想化、連携、統合ができるようになります。

JBoss Enterprise Data Services Platform について詳細は<https://www.jboss.com/products/platforms/dataservices/>で参照いただけます。

---

問： 文書はどこにありますか？

答： JBoss Enterprise SOA Platformの文書は[http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss\\_Enterprise\\_SOA\\_Platform/](http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_SOA_Platform/)でダウンロード、参照できます。

---

Red Hat Customer Portal のナレッジベース<https://access.redhat.com/kb/knowledgebase/en>には具体的なユースケースに関する記事が多数置かれています。

Javadocパッケージはソフトウェアと合わせてRed Hat Customer Portal <https://access.redhat.com/jbossnetwork>からダウンロードできます。

問： インストールの説明はどこにありますか？

答： JBoss Enterprise SOA Platform に関するインストールの包括的な説明は [http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss\\_Enterprise\\_SOA\\_Platform/5/html/SOA\\_Getting\\_Started\\_Guide/](http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_SOA_Platform/5/html/SOA_Getting_Started_Guide/)の『SOA スタートガイド』で参照できます。

問： 対応しているJava Virtual Machine (Java 仮想マシン)、データベースサーバー、オペレーティングシステムはどれですか？

答： 対応しているJava Virtual Machines (JVM)、データベースサーバー、オペレーティングシステムに関する完全な一覧は<http://www.jboss.com/products/platforms/soa/supportedconfigurations/>を参照してください。

問： 同梱のHypersonic データベースにはなぜ対応していないのですか？

答： デフォルト設定には組み込みのHypersonic データベースが含まれていますが、この設定は、評価およびデモのみを目的として提供されているため、本番環境には対応していません。

これについては<https://access.redhat.com/kb/docs/DOC-41794>にて参照いただけます。

問： 本製品のどのコンポーネントがこの機能を提供していますか？また、どのバージョンですか？

答： JBoss Enterprise SOA Platformには以下のコンポーネントが含まれています。

表1 JBoss Enterprise SOA Platformのコンポーネント

機能	コンポーネント	バージョン
Java EE 5 Application Server	JBoss Enterprise Application Platform	5.1
Enterprise Service Bus	JBoss ESB	4.9
Business Rules Engine	JBoss Rules	5.1
Business Process Manager	jBPM	3.2.10
UDDI Registry	Apache jUDDI	3.0.4
BPEL Process Engine	RiftSaw	2.1.4
Identity Management	PicketLink	1.0

問： 本リリースにはどのような**Technology Preview**が含まれていますか？

答： JBoss Enterprise SOA Platformには、以下の**Technology Preview**機能が含まれています。

RiftSaw コミュニティプロジェクトに基づいたWS-BPELサポート

Apache Camel ゲートウェイへのサポート

Technology Preview 機能には完全なサポートがなく、機能面で完全でない可能性があります。そのため、本番環境での利用向けとして設計されていません。これらの機能は、お客様が今後発表される製品イノベーションにいち早くアクセスできるよう含まれており、開発プロセス時に機能のテストやフィードバックを提供できるようにしています。

Red HatのJBoss サポートは、お客様が当機能をご利用中に発生した問題で報告されたものについてはビジネスレベルの範疇で解決に向け尽力していきます。

---

問： 以前のバージョンを使っていますが、このバージョンに移行する場合に、何か問題が発生する可能性がありますか？

答： 発生する可能性のある一般的な問題や本リリースで修正された問題については、「[既知の問題](#)」と「[解決済みの問題](#)」で参照いただけます。

---

問： サポート資格についてどこで詳細を確認できますか？

答： サポートポリシーの詳細は以下のURLに記載されています。

サポートのプロセス — <http://www.redhat.com/support/process/>

エンドユーザーサポートの範囲 — <http://www.redhat.com/support/policy/soc/production>

エンドユーザーサポートのサービスレベルアグリーメント (SLA: Service Level Agreement) — <http://www.redhat.com/support/policy/sla/production/>

開発者サポートの範囲 — <http://www.redhat.com/support/policy/soc/developer/>

開発者サポートのサービスレベルアグリーメント (SLA: Service Level Agreement) — <http://www.redhat.com/support/policy/sla/developer/>

製品アップデートおよび製品別サポートポリシー — [http://www.redhat.com/security/updates/jboss\\_notes/](http://www.redhat.com/security/updates/jboss_notes/)

JBoss エンドユーザーライセンス契約 — [http://www.redhat.com/licenses/jboss\\_eula.html](http://www.redhat.com/licenses/jboss_eula.html)

---

問： ソースコードはどこから入手できますか？

答： JBoss Enterprise SOA Platformの本リリース、以前のリリースのソースコードは、Red Hat Customer Portal <https://access.redhat.com/jbosnetwork/>からダウンロード可能です。

---

### 3. 既知の問題



以下がJBoss Enterprise SOA Platformの本リリースで既知の問題となっており、今後のリリースで修正予定となっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2809>

Apache CXF インストーラは、jboss-as/common/lib/に含まれているサーバープロファイル (all、default、production、standard、Web) を変更します。追加された他のサーバープロファイルについては、このインストーラからの影響はなく、共通のサーバー設定との互換がありません。カスタムのサーバープロファイルを作成するには、先にインストーラを走らせてから、対応プロファイルのうち1つ (all、defaultあるいはproduction) 複製を作成し、プロファイルを作成してください。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2558>

JBoss Rulesバイナリパッケージにおいてバージョン間の後方互換は保証されていません。クライアントおよびサーバーアプリケーションの両方が同じバージョンを使い、双方のシリアル化互換を確保するようにしてください。バージョンをアップグレードする場合、旧バージョンからアップグレードしたバージョンへバイナリパッケージを再コンパイルする必要があります。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2426>

Excel 95 以前のバージョンで作成されたMicrosoft Excel スプレッドシートをナレッジベースにインポートすると、例外 (StringIndexOutOfBoundsException) がスローされます。これは、これらのファイル进行处理の際に使われるJXLライブラリの問題です。この問題は、スプレッドシートをMicrosoft Excel 97 以降のバージョンあるいはOpenOffice.org Calcで開きなおし保存することで回避可能です。

今後のリリースで修正予定となっています。

#### <https://issues.jboss.org/browse/SOA-2134>

JBoss Enterprise SOA Platform 5.0.0 以降のバージョンでは、Smooks 設定にroot フラグメントに適用されるXSLTが1つだけが含まれている場合、断片フィルタはバイパスされます。この場合、パフォーマンス面の理由から、XSLTは直接適用されます。

この動作は**enableFilterBypass** と呼ばれるパラメータを追加し**false**に設定することで無効にできます。

```
<param name="enableFilterBypass">false</param>
```

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1895>

jUDDI Console は、ユーザーによるアカウントの削除は不可でなければならないにも拘らず、削除の試行はできるようになっています。このインターフェースでは、どのユーザーでも root や esbpublisher admin アカウントをjUDDI consoleから削除できるように見えますが、アカウント自体はユーザーに適切な権限がない限り削除されません。また、root ユーザーが自身を削除しようとすると、例外 (UndeclaredThrowableException) がスローされます。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1894>

UDDIサブスクリプションが定義されている場合、jUDDI Console の Subscription ページには4つのアイコン以外は何も表示されません。また、この4つのアイコンに関しても機能しないように見えます。これらのボタンは、最低1つのサブスクリプションが定義されない限り有効にはなりません。

#### <https://jira.jboss.org/browse/SOA-2114>

JBoss Enterprise SOA Platform 4.3 向けにJBoss Developer Studio 3 で作成されたJBoss Rules プロジェクトには、**mvel2-2.0.12.jar** と **xstream-1.2.2.jar**のJAR ファイルが**classpath**に追加されている必要がありました。JBoss Enterprise SOA Platform 5 には各サー

パープロファイルにこれらのファイルが含まれているため、これは必要なくなっています。これらのファイルは、`$SOA_ROOT/server/$PROFILE/deployers/esb.deployer/lib/`に置かれています。

### ESBアーカイブ内でのJARファイル関連の動作が変更

JBoss Enterprise SOA Platform 5.0 では、ESB アーカイブのJAR ファイルはアーカイブのroot ディレクトリ、`/jars` ディレクトリ、あるいは`/lib` ディレクトリのいずれかに設置する必要があります。以前のバージョンではこのような制限はありませんでした。

### ロギングに関して発生し得るパフォーマンスの問題

ロギングは本リリースで変更されました。以前のリリースでカスタマイズしたロギング定義をコピーしないでください。コピーしてしまうと、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

この問題の詳細については<https://jira.jboss.org/jira/browse/SOA-1754> を参照してください。

ロギングにどのような変更がなされたかについては、[http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss\\_Enterprise\\_Application\\_Platform/](http://docs.redhat.com/docs/en-US/JBoss_Enterprise_Application_Platform/)にあるEAP管理設定ガイドを参照してください。

### HttpResponseに後方互換なし

5.0の`HttpResponse`クラスは、ESB HTTP クラスを統合するために変更が加えられたため、以前のバージョンとの後方互換がありません。新しいサブレットベースのHTTPゲートウェイの一部として実行できていました。

`HttpResponse` を使うアプリケーションおよびサービスは、JBoss Enterprise SOA Platform 5.0 にデプロイする前にアップデートする必要があります。必要とされる変更については、[表 2 「HttpResponseに対するリファクタリング要件」](#)にまとめられています。

表2 HttpResponseに対するリファクタリング要件

Pre-5.0.x コード	5.0.x コード
<code>org.jboss.soa.esb.actions.routing.http.HttpResponse</code>	<code>org.jboss.soa.esb.http.HttpResponse</code>
<code>org.jboss.soa.esb.actions.routing.http.HttpHeader</code>	<code>org.jboss.soa.esb.http.HttpHeader</code>
<code>HttpResponse.getHeaders()</code>	<code>HttpResponse.getHttpHeaders()</code>

### 既存データベースの再利用

JBoss Enterprise SOA Platformは、コンポーネントが利用できるよう新規データベースを作成します。コミュニティ版のデータベースは検証されていないため、機能しない場合があります。既存のデータベースを利用する必要がある場合は、Red Hat JBoss Support にご連絡いただければアドバイスを提供できます。

### Groovy スクリプト

Groovy においてバージョン 1.0 から1.5.4へメジャーアップデートがありました。言語に多数の変更が加えられており、スクリプトの多くはそのまま機能しますが、スクリプトによっては少し作業を行う必要がある場合もあります。移行プロセスの一部でスクリプトのテストを行うようにしてください。詳細については<http://groovy.codehaus.org/Documentation> を参照してください。

## Smooks

Smooks はaddToList オプションに対応しなくなりました。このオプションに依存する設定をすべて更新し、リスト処理機能を持つ新しいほうの<jb:bean>構成の名前空間を利用するようにして下さい。詳細については**Smooks ユーザーガイド**の「Java のバインド」章を参照してください。

## jBPM コンソールは認証に対応

jBPM コンソールがデプロイメントの認証に対応するようになったため、プロセスのデプロイにはセキュアでないバージョンのjBPM コンソールは必要なくなりました。プロセスデプロイヤーは<http://localhost:8080/gpd-deployer/>から入手でき、以前のバージョンからのデプロイヤー、<http://localhost:8080/app/upload> と <http://localhost:8080/upload> を置き換えます。

## <https://jira.jboss.org/jira/browse/SOA-1673>

独自の **jbpm-jpdl.jar** を含む Seam アプリケーションは、提供されている jBPM-ESB 統合(例: EsbNotifier) を jBPM プロセスで利用し、同じサーバー上でホストされている ESB サービスを呼び出すことができません。これは、jBPM ESB サービスと Seam アプリケーションの jBPM クラス間におけるクラスローダの問題が原因となっています。

回避策は3つあります。

1. 可能であれば、Seam アプリケーションを ESB サービスをホストしている JBoss Enterprise SOA Platform インスタンス以外のサーバーインスタンスにデプロイします。
2. 呼び出し中の ESB サービスが Seam アプリケーション内で使われている唯一の jBPM である場合、
  - **jbpm-jpdl.jar** および jBPM プロセスアーカイブを EAR から削除します。
  - jBPM console を使い、jBPM プロセスアーカイブを Seam アプリケーションとは別にデプロイします。
3. Seam アプリケーションが別の目的で jBPM を利用している場合 (例: Seam Pageflow)
  - Seam アプリケーション内でクラスの名前空間の分離を有効にします。
  - カスタムの ActionHandler を作成し、ESB サービスを呼び出します。
  - クラスローダがカスタムの ActionHandler を利用できるようにします。
  - jBPM プロセス定義を変更しカスタムの ActionHandler を呼び出します。

2番目の回避策を実装する詳細方法

は、<http://community.jboss.org/wiki/WorkaroundforSeamESBjBPMClassloadingIssue> を参照してください。

JBoss Class Loadingに関する詳細情報

は、<http://community.jboss.org/wiki/JbossClassLoadingUseCases> を参照してください。

## <https://jira.jboss.org/jira/browse/SOA-1916>

ESBアーカイブを JON Console を利用して削除しようとする、関連のあるキューが削除されません。そのキューは **DOWN** と表示したまま残ります。さらに、これらのキューを削除しようとする、**java.lang.IllegalStateException** の例外が発生します。

## <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBESB-3028>

SOAPProxyを設定しWSDLをプロキシ設定されたサービスURLを取得する場合、Web サービスがコンテンツの長さが超過しているか、指定されていない点に反応し警告がログに記録されます。

#### <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBESB-3038>

`spring_aop` のクイックスタートは、署名付きのJARsで機能しません。このクイックスタートに対し `ant deploy` を実行しようとする  
と、`org.jboss.deployers.client.spi.IncompleteDeploymentException` がスローされます。

この問題を回避するには、署名のない`cglib` JARs で置き換えてください。

#### <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBESB-3035>

Web Service プロキシを使い、一方向の Web サービスを呼び出す場合、**HTTP Code 500**のランタイム例外を間違えてスローし、この例外とともにクライアントに誤ったメッセージを返します。この場合**HTTP Code 500**は無効で、メッセージがESBに正しく配信された旨の**Code 200**あるいは**202**のみが返されるべきです。

#### <https://jira.jboss.org/jira/browse/SOA-1564>

現在、UDP Gatewayに対するデフォルトのESBhandler クラスはXSDスキーマにハードコード化されており、変更あるいは削除できません。

#### <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBESB-2911>、<https://jira.jboss.org/jira/browse/JBPAPP-3002>

Web サービスがESBアーカイブ内でデプロイ、組み込まれており、**WAR**に**WEB-INF/jboss-web.xml** ファイルが含まれていない場合、Web サービスのWSDLが無効となり、404エラーが返されます。

#### <https://jira.jboss.org/jira/browse/JBESB-2442>

現在、**Scout** は**BusinessQuery/BusinessLifecycle** 経由で発生する呼び出しすべてに対し、新しい**AuthToken** を作成するため、jUDDI の認証テーブルが急増してしまいます。

この問題の回避策は、特定のtimestamp パラメータ内にある行を削除することです。例えば、10分以内に作成された行をすべて削除するなどです。

## 4. 解決済みの問題

以下の問題がJBoss Enterprise SOA Platformの本リリースで修正されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2841>

JBoss Rules 関連の修正4点がJBoss Enterprise BRMS Platformから移植されました。これらの問題は以下の通りです。

- ASMオプティマイザがMVELのconsequence で利用されている場合、MVEL NoClassDefFoundError 例外がスローされていました。
- RuleFlowは、BusinessRulesProcessor アクションで正しく機能しないときがありました。

modify tuple の呼び出し内における tuple の順番が原因で、例外 (NullPointerException) がスローされていました。

- ruleflow にバージョン属性セットがない場合、ResourceChangeScanner により例外 (NullPointerException) がスローされていました。

これらの問題はすべて修正されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2782>

修正済：JBoss Rules Session の挿入により、マルチスレッド環境において予期せぬ例外 (ConcurrentModificationException) がスローされていました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2771>

RuleFlowは、BusinessRulesProcessor ESBアクション内で正しく実行されないことがありました。これは、通常予期されるようにステートフルセッションではなくステートレスセッションにて実行されていたためでした。ステートレスセッションの処理コードが更新され、この種のシナリオの処理が改善されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2770>

CXFを有効にした状態でsecurity\_saml クイックスタートをデプロイした場合、java.lang.ClassCastException が発生していました。これはbuild ファイル内でのエラーが原因でデプロイメントではクラスがあるにも拘らず、その後の稼働テストでは存在しないためでした。この問題を修正するため、このクイックスタート内のpicketlink-sts.war ファイルが更新されました。結果、例外が発生しなくなっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2755>

本リリース向けにJBossESB 名前空間のXSD URL が変更されました。JBossESB 製品のクイックスタートにあるjboss-esb.xml ファイルが現在の名前空間定義を参照するように更新されました。JBoss Developer Studio を利用している場合正しい名前空間が必要です。正しくない場合は、自動補完は機能しません。

正しいXSD URL は、  
<http://anonsvn.labs.jboss.com/labs/jbossesb/trunk/product/etc/schemas/xml/jbossesb-1.1.0.xsd>と  
なっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2748>

ESB以外のWeb サービスに関するクイックスタートは、CXFでは機能せず、デプロイメント時に失敗します。このコードは、実行する予定のプロファイルをチェックし、jbossws-native が存在しない場合、代わりに分かりやすいエラーメッセージが生成されるようになりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2729>

wsmq\_router QS readme ファイルの説明に現在使われていないデータソースの作成という、必要のない手順が含まれていました。この手順はファイルから削除され、説明は簡素化され適切になりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2701>

JBossTS トランザクション reaper がトランザクションを中断した場合、JCAレイヤーでデッドロックが発生する可能性があります。これは、マルチスレッドアクセスの問題が原因でしたが、コードが修正され、デッドロックが発生しなくなっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3545>

jboss-esb.xml ファイルは適切なスキーマで認証されていませんでした。この問題は、ModelParserにある静的初期化子の順番が原因で起こります。これについてはすでに修正されており、正しく認証されています。jbossesb-properties.xml ファイルのorg.jboss.soa.esb.deployment.schema.validation プロパティを使うことでこの設定をオーバーライドすることができます。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3549>

サーバー起動時にレジストリの例外が発生していました。これは、JUDDIにおける並行処理の問題が原因で発生していました。コードの修正が適用された結果、この例外は発生しなくなっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2670>

bean 設定プロパティ名が変更され、JavaBeans の規則に従うようになりました。例えば、プロパティ名は以下のような形式を取ります。

`isTransactionEnabled`

上記は下のような名前になります。

`transactionEnabled`

これらは後方互換がありますので、以前の形式での名称も利用することが可能です。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBIDE-7786>

SOAランタイムは利用可能なときでも無効になっているように見えており、JBoss Developer Studio では、BPELプロジェクトをSOAランタイムと紐付けることができませんでした。現在のプロジェクトファセットの1つをアンインストールするように、誤ってプロンプトが出ていました。BPELのファセットIDをJBoss Developer Studioに追加し、ユーザーがSOAを対象のランタイムとして選択できるようにすることで、この問題は解決されました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3556>

シリアル化の形式はJBoss Rules のバージョンや暗号化のペイロードがコンテンツに含まれているかにより変化する可能性があるため、生成されたパッケージは削除されていました。今は自動生成されており、互換性の問題はなくなりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2607>

ESB 管理ガイドの「データベース設定」の章に、ESB Management Console (これはSOA 5 製品系には含まれていません) への参照が含まれています。この章は更新され、分かりやすく適切になりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2601>

opensso ESB クイックスタートのopensso-1.0.earはデプロイしませんでした。これが発生した理由は複数あります。1つ目は、application.xml ファイルにByte Order Marker (BOM)が含まれており、デプロイを解析することができませんでした。2つ目は、jboss-aop.xml に不正な名前空間定義が含まれていました。しかし、これらの間違いが設定ファイルから削除され、さらに jsr173\_api.jar が WARファイルから削除されており、このクイックスタートはエラーなしにデプロイされています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2600>

JBoss SOA Platformには、headlessモードが有効な状態で提供されます。しかし、クイックスタートによっては、このモードを無効にしてから実行する必要があるものもあります。これらのクイックスタートを実行するためにheadless モードを無効化する方法は、SOAスタートガイドの設定の章を参照してください。

headless モードが無効の状態ではJBoss SOA Platform を本番環境で実行することは推奨されません。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2581>

JBDSを使いModeShapeに公開する場合、オプションが1つ追加され、"workspacepath"を指定できるようになりました。何をシーケンスするか決定する際にサーバーがこのパスを使います。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2578>

JCA層がメッセージのインフローデプロイメントを終了しようとする時、JBoss Messaging コードの競合がトリガーされていました。これが原因で、トランザクション境界へのコミット中に `IllegalStateException` タイプの例外が発生していました。JBoss Messaging のパッチが何点かバックポートされこの問題を修正しています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3532>

`SOAPProxyWsdloader` は HTTP クライアント設定を抽出すると同時に、`TARGET_HOST_URL` を初期化していました。結果、後に続く URL で指定した値に関係なく、後続の全 WSDL クエリに対してホスト/ポート情報が保持されてしまいました。`SOAPProxyWsdloader` ファイルのコードが変更されこの問題は修正されています。結果、後続の URL の値も認識されるようになっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBIDE-7480>

ユーザーが `onAlarm` スコープにアクティビティを追加すると、`null-pointer` 例外が発生していました。これは `ReconciliationHelper.java` のバグが原因で発生していました。このコードは修正され、ユーザーは例外が発生することなく、このスコープにアクティビティを追加できるようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBIDE-7478>

バリデータにより WSDL インポートの抜けが警告として登録されます。プロセスファイルが存在しない WSDL へのインポートを宣言するとこのプロセスはデプロイされないため、これは不正です。バリデータは、WSDL インポートの抜けをより正確にエラーとして登録するようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBIDE-7477>

ユーザーが新規の配備記述子を作成、修正した後、プロジェクトからのファイルを削除した場合、ODE の配備記述子のエディタは開かれたままになっていました。新規の配備記述子その後作成されても、エディタはその内容を表示するために更新されませんでした。`ProcessPage.java` ファイルが修正され、配備記述子が削除されるとエディタが閉じるようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2466>

`Administration Console` がデフォルトのデプロイメント下で実行された場合、エラーが標準出力 (stdout) で表示されました。"Plugin [Platyform] at [jndi:/localhost/admin-console/plugins/rhq-platform-plugin.jar] could not be loaded and will therefore not be deployed." といったメッセージです。これは、JAR ファイルに署名情報が含まれていないため発生していました。JAR ファイルが適切に修正され、エラーがログに記録されないようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3520>

`Admin Console` から ESB サービスエンティティを参照した場合、サービスデプロイメント内の全 ESB サービスに対して、同じ説明が表示されていました。説明を収集するコードが修正され、正しい説明が表示されるようになっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3525>

Camel HTTP コンポーネントに対してポーリング頻度を設定する方法がありませんでした。デフォルトのポーリング頻度は高すぎるため、大量のメッセージを生成していました。スケジューリングサポートが Camel Gateway に追加されました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2455>

`MessageSucker` はクラスタのメンバー同士の間でメッセージを移行し、ローカルのクラスタメンバーへのキュー宛に着たメッセージをリモートのキューから受信し、このキューから消費します。`MessageSucker` が停止すると、送信に失敗したメッセージは再送されず、データベースに残っている

ました。一時停止された場合メッセージの再送がトリガーされるようにJBoss Messagingが修正されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBPM-2964>

例外処理が改善されています。rollback() メソッドがトランザクションをロールバックしログに記録するとともに、発生した例外を受け取り返すようになりました。以前は、commit()メソッドがDbPersistenceService.endTransaction()に例外をスローし、rollback() が呼び出されてから、rollback() も例外をスローした場合、クライアントアプリケーションが例外を受け取っていました。これは最適な動作とは言えませんでした。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3514>

web-service クイックスタートのサブセットは、CXFがマシンにインストールされている場合、コンパイルに失敗していました。これは、soap.esb ファイルにjaxws-rt/tools JARが含まれていることが原因で起こっていました。CXF統合をサポートするよう、抜けていたファイルが追加された結果、クイックスタートは問題なくコンパイルを開始するようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2439>

jUDDI スキーマはjuddiv3.warのuddi\_v3replication.xsl ファイルでWSDLに無効な型が指定されていました。WSDLの型が修正されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2433>

DB2スキーマツールはdb2jcc.jarのlib ディレクトリをチェックしていました。しかし、この場所でのjarの正しい名称はdb2jcc4.jarで、このチェックは更新されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2427>

サーバー起動すると、esbwarfiles ディレクトリの作成試行時に、"could not create directory"というエラーが複数ログに記録されていました。ディレクトリがすでに存在しているため、このログエラーは間違いでした。作成済みのesbwarfiles ディレクトリを処理するためのチェックが追加され、ディレクトリが存在せず、作成できない場合のみ、このエラーのログが記録されるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2425>

jUDDI クライアントはJAXWSTransport でサービスをリトリブすることができませんでした。リトリブの試行をすると、TransportExceptionタイプの例外が発生していました。これは、WSDLで指定しているサービス名がJAXWSTransportのものと一致しないために発生していました。JAXWSTransportと一致するように、WSDLが更新されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2424>

HttpClientFactory のトラストストア設定が正しく機能しませんでした。問題は2つあり、1つ目は定義したプロトコルが利用されず、ソケットファクトリが常にデフォルトのプロトコルインスタンスに関連付いたファクトリを使っていた点、2つ目は、プロトコルのソケットファクトリビルダがファイルから暗号化されたパスワードをリトリブすることができない点です。これらの問題は両方解決され、トラストストア設定は HttpClientfactory で正しく機能しています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2423>

認証情報がSOAPProxy向けに保存されていると、clientCredentialsRequired プロパティが false に設定されている場合でもクライアントが認証情報なしにサービスを呼び出すことができませんでした。このプロパティが false の場合、認証情報が保存されていても認証の必要がなくなっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2419>



2回目移行にデプロイされたEJBには、EJB からJBoss Rules ESB サービス (jbrules.esb) を利用できません。この原因は、コンテキストクラスローダではなくjbrules.esb クラスローダを利用し、これらのクラスがロードされるためです。クラスがデプロイメント間でキャッシュされるため、後続のデプロイメントによる呼び出しで誤ったクラスローダを利用していました。これについては、全デプロイメントが確実にコンテキストクラスローダを使うようにすることで解決されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2416>

ヘッダーからのメールがjbpm.cfg.xmlで設定されている場合、jbpm.mail.from.address プロパティの値がヘッダーで利用されませんでした。これは修正され、ヘッダーは予期された通りにjbpm.cfg.xmlに設定することができるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBPM-2959>

JBPM 4 からのディスパッチスレッドをこのリリースに移植しています。これは、複数の JobExecutor スレッドにて起こっていた競合状態 (MySQL 5.0固有のロックに対する問題が原因で発生) を修正しています。これらのロックの問題は MySQL バージョン5.0 以降には影響がありません。この修正の結果、MySQLを利用しても、ユーザーは本シナリオで競合状態に陥ることはありません。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2392>

run.conf (および run.conf.bat) 内のデフォルトJVMメモリ設定が本リリースでアップデートされました。PermSize は設定されなくなり、MaxPermSize が256 メガバイトに設定されています。これにより、サーバーの動作が様々なプラットフォームにおいてより一貫性を持つようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBPAPP-5175>

JBossTS TransactionReaper にはバグが含まれており、動的モードで実行されている場合、間隔を置いて実行されるのではなく継続的に実行されてしまっていました。これによりパフォーマンスの低下が引き起こされていました。この問題を修正するため、JBossTS が更新され、Reaper は間隔を置いて実行されパフォーマンスも改善されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2351>

http://localhost:8080/ で表示されるSOA Platform 5.1のトップページが強化され、ESBプロジェクトだけでなくTeiid、Drools、jBPM のURLも表示されるようになっています。結果、ユーザーはこれらのプロジェクトのサイトへ素早くアクセスできるようになりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3487>

Timer.Execute 内のプロセスインスタンスにおける変更を記録するプロセスログがデータベースに保存されませんでした。この問題を修正するため、ExecuteTimerCommand.javaへのコードが変更されました。結果、JBPM\_LOG テーブルには変数の修正およびtimer からの移行に関するエントリが表示されます。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3484>

SOA PlatformのInVM 呼び出しはBusHolder に依存していますが、JBossWS CXF 統合の最近のバージョンまで追加されていませんでした。この問題に対応するため、InVM の呼び出しに対応するようにJBossWS 設定を拡張する必要がありました。つまり、ESBコードがBusHolderを使い ServletControllerExtを作成するか、あるいは拡張の'bag'に格納されているインスタンスを参照するか選択することができるのです。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3518>

CXF 統合は指定すべきXMLカタログがないとスキーマをリモートで解決しようとするため、このカタログが必要でした。本問題を修正するため、juddi webservicesのjax-ws カタログが追加されています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3473>

JMSメッセージが失われ、シャットダウン中にアクションが完了前に終了されてしまうことがありました。doStop メソッドが呼び出されると、ステータスがSTOPPINGに設定され、そのスレッドが処理中かどうかに拘らず即座に実行スレッド(MessageAwareListener.java)を終了してしまうため、これは発生していました。この問題を修正するため、MessageAwareListener コードが修正され、ソフトウェアのシャットダウン時にメッセージが失われなくなっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3476>

Web Service 関連のクイックスタートは、Web Service スタックがCXFに切り替えられるとデプロイに失敗していました。これは、'assert-ws-available' の対象が適切な場所である {org.jboss.esb.server.home}/client/ ではなく、{org.jboss.esb.server.home}/common/lib/ ディレクトリで cxf-rt-core.jarを検索していることが原因でした。この問題を修正するため、チェックが取り除かれ、Web Service クイックスタートがデプロイできるようになっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2267>

BPELエンジンのデプロイ時に、Schema Tool を使い org.jboss.internal.soa.esb.dependencies.DatabaseInitializer を deploy/jbossesb-registry.sar/juddi-ds.xml から deploy/jbossesb-registry.sar/META-INF/juddi-service.xml に移動させると、エラーが発生していました。この問題を修正するため、新しいbuild.xml ファイルが提供されています。このファイルは別の/deploy/jbossesb-registry.sar/META-INF/juddi-service.xml ファイルを作成するのではなく、新しいプロトタイプの juddi-service.xmlを/deploy/jbossesb-registry.sar/juddi-ds.xmlへ統合しています。結果、Schema Toolを実行後、ユーザーはBPELエンジンをデプロイすることができるようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2258>

フォームベース認証のSOAオーバーレイがWS-CXF コンソールに正しく適用されていませんでした。これが原因でコンソールが基本認証にフォールバックしていました。コード修正が適用され、フォームベースの認証がこのコンソールで正しく機能するようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2243>

レガシーのJBoss メッセージキューに関連するキューの定義ファイルがクイックスタートから削除されました。ユーザーが混乱しないよう削除されました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3462>

メッセージコンポーザのNullPayloadHandling のデフォルトをNONEに変更しました。以前は HttpMessageComposer と JBossRemotingMessageComposerの両方で、デフォルトがLOGとなっていました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2231>

ソースパッケージをEclipse にインポートし、ESBサービスランタイムを追加した後、以下のエラーが発生していました。

Description Resource Path Location Type

The method setOutgoingRunAs(RunAs) in the type SecurityContext is not applicable for the arguments (RunAsIdentity) JBossASContextPropagator.java  
/JBossESB/rosetta/src/org/jboss/internal/soa/esb/services/security line 262 Java Problem

この問題を修正するため、AS4 バージョンの機能を拡張しているため、.class-path がAS5 JAR を参照するように更新されました。結果、このエラーは発生しないようになりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3459>

MessageCounter MBean はバイト処理カウントを誤って報告していました。これはSOAのバグでしたが、すでに修正済みです。結果、MessageCounter MBean は処理済みのバイト数を正しく報告するようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3458](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3458)

SOAPProxy ServiceのプロキシURLに到達できない場合、サーバーはハングしていました。ルーティング Java クラスにある一連のコードが修正され当該問題が解決しており、サーバーはこのような場合にハングしなくなっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2226](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2226)

Aggregator への受信メッセージに存在するReplyTo EPR が集約されたメッセージに伝播されませんでした。結果、Aggregatorの後にパイプラインアクションを使い、EPRを明示的に設定する必要があります。しかし、同じEPRがAggregator への各受信メッセージに存在する場合、EPRが集約されたメッセージに伝播されるようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2224](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2224)

構成が一定の方法で設定されている場合、カスタムの再試行ハンドラが検出されませんでした。これはsetConfiguration(ConfigTree):void メソッドがHttpMethodのHttpMethodParamsに設定されておらず、POSTHttpMethodFactory とGETHttpMethodFactoryの両方でバグが原因でした。AbstractHttpMethodFactory にタスクが追加され、パラメータを正しく抽出しハンドラのインスタンスを作成します。このアクションのorg.jboss.soa.esb.actions.routing.http.routingHandler パラメータを指定することで、再試行のハンドラが設定されている点に注意してください。このパラメータの値は、HttpMethodRetryHandler を実装し、public で引数なしのコンストラクタを持つクラス名でなければなりません。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2220](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2220)

soapui SoapClient がsoap のレスポンス内でコレクションとして誤って要素を指定し、名前にインデックスを追加されることがありました (例: [0])。しかし、これは修正され、発生しなくなっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2218](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2218)

SOAPClient は常に null オブジェクトを空の要素にマッピングしていました。これは変更され、オプションで適宜xsi:nil 属性の利用もできるようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2216](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2216)

分岐および結合の操作を例示する際に使うbpm\_orchestration2 クイックスタートで、分岐アクションの間で競合が起こる場合がありました。これは、分岐アクションがすべて同じプロセス変数をアップデートするために設定されていたのが原因でした。分岐が別の変数を使うように、このクイックスタートが更新されました。こうすることで、データ統合を行う結合の後にくるアクション間の競合を防いでいます。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3309](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3309)

MessageMulticasterは集約識別子を作成し、メッセージのプロパティにこの値を保存していますが、これが原因でInVM トランスポートと共用すると問題が発生していました。理由は、複数のサービスに送信されると、全サービスが同じプロパティを参照し、タイミングによっては同じ集約識別子を参照する可能性があるためです。メッセージのコンテキストは参照が作成されると共有されるのではなく、常に複製が作成されるため、メッセージのコンテキストに集約値を保存することで当該問題が解決されています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2206](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2206)

SOA Platform はJackRabbit と JCR 1.0 APIを同梱していましたが、このプラットフォームでこれらに対応していないため、削除されています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3440](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3440)

WISEは Java クラスの生成にclass-pathにこれらのクラスが作られる前にSmooks 設定をロードしていました。これにより、チェックを行うためにクラスインスタンスをロードする必要があるnamespace 設定に問題が発生していました。これらのクラスが存在しないため、例外がスローされていたのです。

この問題を解決するため、WISE SmooksMapperクラスに修正が加えられ、Smooks インスタンスの作成をコンストラクタから削除し、"applyMapping" メソッドに移動させました。これらのクラスは上記を実行する時点で生成されているため、例外が発生しなくなっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2196](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2196)

Web アプリケーションのトップレベル (<http://localhost:8080/>) にある"Customer Portal" リンクの名称がRed Hat Customer Portalに変更されました。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2186](https://issues.jboss.org/jira/browse SOA-2186)

呼び出された Web サービスがSOAP fault を生成するとSOAPClient がActionProcessingException をスローする点を反映するため、ESBプログラマガイド文書の例外処理動作が更新されています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3391](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3391)

SoapUIClientService が既に古いDOM Document ルート要素への参照を保持しているため、#document のフラグメントが対象になっているSoapUIClientService の変換が失われていました。この問題を解決するため、Smooksを呼び出すSoapUIClientService.buildSOAPMessage() メソッドに修正が加えられており、これらの変換が損失されないようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3389](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3389)

Object Mapperへの呼び出しが矛盾しているため、オブジェクトパスがリアルオブジェクトに変換されていました。オブジェクトパス上のオブジェクトがString でない場合、例外がスローされていました。それ以外の場合は、ルーティングが機能しませんでした。コードへの変更がいくつか適用され、この重複は発生しなくなり、この問題はなくなりました。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3378](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3378)

setConfiguration(ConfigTree):void メソッドのhttp-client-properties がHttpMethodの HttpMethodParamsに設定されていない POSTHttpMethodFactory と GETHttpMethodFactoryの両方にバグが存在していました。つまり、カスタムの再試行ハンドラは無視されていたのです。"http.method."で始まるプロパティが HttpMethodParamsに設定されないように、このバグへの対応がなされており、カスタムの再試行ハンドラが正しく検出されるようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBPM-2905](https://issues.jboss.org/jira/browse JBPM-2905)

メッセージの"from" 属性が"mail.from" プロパティを使い自動生成されず、代わりに message.setFrom() メソッドが明示的に呼び出されていました。testFrom メソッドがMailTest ケースに追加され、"from" 属性が正しく設定されるようにしています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3355](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3355)

HTTP ヘッダの検証プロセスにて、「空でない」ように厳密にチェックしていました。しかし、空でも有効な場合があります。これに対応するため、この条件が緩和され、今は「nullでないか」をチェックするようになっています。

#### [https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3354](https://issues.jboss.org/jira/browse JBESB-3354)

/http\_gateway/readme.txt ファイルは誤って"http-gateway"ではなく、"http-listener"を参照しており誤解を招く可能性があったため、修正されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2113>

本リリース向けにJBossESB 名前空間のXSD URL が変更されました。JBossESB プロジェクトのクイックスタートにあるjboss-esb.xml ファイルが現在の名前空間定義を参照するように更新されました。JBoss Developer Studio を利用している場合正しい名前空間が必要です。正しくない場合は、自動補完は機能しません。

正しいXSD URL は、  
<http://anonsvn.labs.jboss.com/labs/jbossesb/trunk/product/etc/schemas/xml/jbossesb-1.1.0.xsd>と  
なっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3327>

SOAPClientのOGNL ユーティリティがSOAPのレスポンスから正しくコレクションをマッピングしませんでした。これは修正され正しく機能するようになりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3308>

ESBはメッセージのreplyToに依存し、RequestResponse サービスの返答を送信する箇所を把握します。しかし、Aggregator アクションは一連の集約メッセージの作成時にreplyTo を保存しようとしませんでした。この問題を解決するために、集約メッセージに添付されたメッセージすべてが同じEPRを持つ場合、エンドポイント参照を集約メッセージのみにマッピングするようになりました。

多くの場合、集約メッセージのreplyToは同じであるため、結果の集約メッセージに追加するのはいい考えでしょう。そうしないと、assembler アクションで手動にて処理する必要があります。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2077>

"TOPIC"の宛先タイプを持つjms-message-filter をトピックへの永続サブスクライバにすることができませんでした。実はこれはjms-listener 経由で設定されており、これを変更することで当該設定オプションを可能にしました。結果、ユーザーはjms-message-filter を永続的なトピックサブスクライバにすることができるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3276>

認証が必要とされる場合、soapui クライアントは複数のインターフェースをロードできません。これは、最後のインターフェースにのみhttpclientを使ってロードされるWSDLコンテキストが含まれており、このhttpclientに認証情報が含まれているためです。こうすることで、以前のインターフェースがUrlWsdLoaderを使って強制的にリロードされます。UrlWsdLoader は認証についての情報がないため、独自のhttpclientをインスタンス化してしまいました。この問題を修正するため、JBoss AOP アスペクトが作成されました。EsbWsdLoader が常に返されるように、このインターセプタは、soapUIの WsdContext\$Loader.getWsdLoader() メソッドを呼び出します。その結果、認証が必要な場合でも、soapui クライアントは複数のインターフェースをロードできるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-2036>

ESBプログラマガイドは、全ゲートウェイがServiceInvokerを使うわけでない、と誤って記載していましたが、すべてのゲートウェイがServiceInvokerを利用しており、本文書はこれを更新され、これを反映しています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3491>

JMX コンソール経由で利用できたMBean 属性 "StateString"は、存在しなくなりました。これは、SOA Platform が Application Server 5で実行されているためです。結果、ESBパッケージのデプロイメントのステータス ("Started" あるいは "Stopped") をJMX Console経由で見つけることができませ

んでした。この機能は Application Server 5に移植され、再度使えるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3356>

SOAPProxy、SOAPClient、HttpRouter はすべてApache HTTP クライアントを使い、HTTPの呼び出しを実装しています。これらのアクションのURLは静的であるため、同じホストを常に指定します。以前は最大の合計接続数、ホストHTTP毎の最大接続数の値がこれらのクライアント毎に個別に設定されていました。現在ユーザーは、単一のパラメータを使って設定することができるようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3224>

jBPM のパフォーマンスを改善するため、キャッシュのフォームがActionProcessingPipelineに追加されています。これは、キャッシュレジストリのインターセプタをアクティベートし、指定なしのデフォルトレジストリキャッシュと同じように、有効な期間をデフォルト設定することで可能になります。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3201>

SyncServiceInvoker を使いプロキシサービスを呼び出すと、javax.jms.IllegalStateException がスローされていました。プールに返されるXAセッションのトラッキングの質がよくないことが原因で、結果コンフリクトが発生していました。この問題を修正するためにコードが一部変更され、当ソフトウェアがセッションユーザー、プロデューサ、コンシューマ、XAセッションのキャッシュをトラックするようになりました。結果、この例外も発生しなくなりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3046>

JBoss WebService/CXF stack へのサポートが追加されました。Apache CXF はオープンソースの Web サービスフレームワークです。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1964>

jUDDI は、GetSubscriptionResult経由で受け取るサービスを登録できないことがありました。これは jUDDI をバージョン 3.0.2 にアップグレードすることで修正されます。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1950>

署名付きのマニフェストファイルが soa-5.1.0.zip アーカイブに追加されており、Customer Service Portalから入手できます。これを利用し整合性やファイル毎のSOA-P5 jarソースを確認してください。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3180>

ユーザーがdescription 属性が""に設定されているJBoss ESB サービスをデプロイした場合、Oracle10g データベースを使いjUDDIにこのサービスが登録されていると例外が発生していました。これは、jUDDIの問題で、この問題に対応するため、ESBが変更されています。サービスの説明が存在するよう確認しています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3528>

PROFILE/deploy/jbossesb.sar/esb.juddi.client.xml 設定ファイルには、JAX-WS トランスポートを使いローカルのUDDI レジストリに接続する例が含まれていました。この設定例を利用すると、サーバーが起動時にフリーズしていました。JAX-WS トランスポートは、必要な webservice 円Dポイントがサーバーが起動完了するまで利用できないため、リモートのUDDIレジストリへの接続にしか利用できませんでした。

JAX-WS設定例が更新され\${jboss.esb.bind.address}:8080 の値がREMOTE\_HOST:REMOTE\_PORT に置き換えられました。この設定を使うには、編集予定の設定にリモートのUDDIレジストリの正しいホスト名とポートが含まれていなければなりません。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1935>

jUDDI コンソールで利用されるセキュリティサービス実装は、クライアントの設定ファイルに定義されているリモートサーバーからauthToken を取得することができませんでした。これは、jUDDI のバグで、コンポーネントを新しいバージョンにアップグレードすることで解決されます (New Subscription ボタンをクリックし、設定ノードを表示させる必要があるため注意してください)。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1833>

ユーザーがant 経由でESBをデプロイした場合、特定の状況においてJONツリーモデルで並行処理に問題が発生する可能性があります。これはツリーモデルが別のスレッドにより更新されるため発生していました。コードが変更されこの問題は解決しています。結果、このような並行処理に関する問題は発生しなくなりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBAS-7528>

XML経由でHDSScannerのscanEnabled 属性を true に設定すると、セッターロジックがクラスの create メソッドがすでに呼び出されているという点に基づいているため、null-pointer の例外が発生していました。この問題を解決するには、HDSScanner のテストケースが追加され、このnull-pointer の例外が発生しなくなっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3492>

ユーザーが存在しないデプロイメントを削除すると、例外が発生していました。これはユーザーがクイックスタートを起動してからSOA Platform をJONにインポートし、(ant undeploy経由で) クイックスタートを削除した後に、JONコンソールを使い再度削除しようとするとき起こっていました。この問題を解決するため、ソフトウェアを変更しNoSuchDeployment 例外をキャッチしていません。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1814>

JON Consoleでデプロイメントタイプを検索することができず、Value フィールドの入力値に"nothing found."と記載されていました。これは修正されデプロイメントタイプが正しく表示されるようになっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3338>

クイックスタートがjavax.naming.NamingException: Failed to retrieve Naming interface for provider で失敗してしまいます。これは、ロードジェネレータとの問題が原因となっています。この問題を修正するため、Groovy class-path がexec class-pathに変更され、クイックスタートがこの問題で失敗することがなくなりました。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1760>

JBoss Enterprise Application Platform ネーティブコンポーネントがインストールされていると、警告メッセージが常に起動時に表示されていました。これらのメッセージは表示されなくなっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1700>

BusinessService オブジェクトを何も定義していないBusinessEntity がjUDDIへ保存された場合、jUDDI ConsoleでBusinessEntityのプロパティを参照しようとするときNullPointerException がスローされます。コードが変更され、このような状況でNullPointerException が発生しなくなっています。

<https://issues.jboss.org/jira/browse/JOPR-419>

サーバーが-c 設定スイッチなしに起動されると、default と名称がついたプロファイルが実行されません。

これは正しい操作ですが、残念ながらJONは誤って、production プロファイルが実行されたと仮定します。

また、JONはバインディングアドレスが指定されていないと、0.0.0.0であると認識します。

JONがdefault プロファイルを認識し、正しいアドレス127.0.0.1にバインドするには、

-c および -b パラメータを常に使ってください。こうすることで、JONはこのプラットフォームを認識します。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-3538>

スキーマのインポート/包含へのサポートが SchemaValidationAction に追加されました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1463>

ユーザーがESB Statistics レベルからstart、stop、create、destroyのデプロイメント操作を実行しようとすると、例外 (java.lang.Exception) が発生します。

この問題を軽減するため、本レベルでこれらの操作が利用できないようになっています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1406>

JBoss Cache はjBPMのクラスタ設定にて利用されるようになりました。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/SOA-1278>

カスタムのゲートウェイ作成について、ESB プログラマガイドに新しい章 (7.2.5 章 カスタムのゲートウェイ作成) が追加されています。

#### <https://issues.jboss.org/jira/browse/JBESB-1914>

unwrap/wrapスイッチに対するサポートがHttpRouter に追加されました。これによりAPIでの整合性が取れるようになっています。



## A. 改訂履歴

<b>改訂 5.1.0-2.400</b> Rebuild with publican 4.0.0	<b>2013-10-31</b>	<b>Rüdiger Landmann</b>
<b>改訂 5.1.0-2</b> Rebuild for Publican 3.0	<b>2012-07-18</b>	<b>Anthony Towns</b>
<b>改訂 5.1.0-1</b> 旧版の文書URLを使っていたリンクを2点修正 重複アイテムおよび誤植を削除	<b>Tue Mar 15 2011</b>	<b>Darrin Mison</b>
<b>改訂 5.1.0-0</b> SOA 5.1.0 向けの公開	<b>Fri Feb 18 2011</b>	<b>Darrin Mison</b>